

神奈川県立秦野曾屋高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 秦野曾屋高等学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	2025/10/31
開催場所	秦野曾屋高等学校 会議室他
出席者	【委員】梶山孝夫、佐野典文、獅々倉聰、反町聰之、鳥海靖史、三浦義政、山口正樹、山田浩之、吉田正也、渡邊誠司 【事務局】佐藤道和、沼田伊里、甲斐正、廣重直樹、富田壮、齋藤昂良、綿引俊哉、川島聰、橋本誠、杉田誠一郎
会議資料	令和7年度 秦野曾屋高等学校 第2回学校運営協議会
議事録	◎授業見学 ◎校長あいさつ 令和11年度の生徒は、秦野曾屋高校の最後の生徒となる。令和12年度は秦野総合高校と再編・統合する。令和8・9年度入試を実施したのち、生徒募集停止となる。 ◎会長あいさつ 教え子の山本先生の授業を見た。本人のモチベーションが上がっていた。東海大学の構内で、上級学校訪問で来ていた廣重先生と遭遇した。大学でどのように授業が行われているかを見るには生徒にとって刺激になる。秦野曾屋高校は再編・統合となる。新しい学校は秦野総合高校の施設を使うので、曾屋高校にとっては厳しい状況となる。今後はしっかりと計画を立てて教育活動を行っていく必要がある。 ◎各グループの取組みについて ●学習支援グループ ・指定校事業として、2度目の授業力向上推進重点校に指定された。公開研究授業を通じ、今後も授業改善を進めていく。 ・英検第2回の1次試験が終わった。現段階では2次試験の結果が出ていないため、今後、結果が出次第、合格者数を集計していく。 ●生徒会支援グループ ・山岳部は関東大会に出場した。 ・体育祭について、昨年度の段階から準備を開始し、スムーズに運営することができた。また、PTAからの飲料の配付により、熱中症対策をしっかりと行うことができた。 ・文化祭について、台風が来ていた。1日目は午後を中止とし、午前のみ実施することができた。2日目は全日にわたり実施することができた。また、初めてauPAYを活用し、販売団体はスムーズに決済することができた。 ・3月のソヤリンピックに向けて生徒会の新体制で準備していきたい。 ●生活支援グループ 教育相談支援を強化してきた。3年生の進路実現について、「行ける進路」ではなく、「行きたい進路」を目指すことをさせたい。支援を通じて問題を抱えた生徒を早期に発見し、「行きたい進路」を実現させたい。SSWや進路支援グループと協働してサポートしてきた。今後も続けていきたい。 ●進路支援グループ ・進学後、保護者等から一切援助がない生徒について、寮から通い、働きながら学費を稼ぐことの道筋を立てることができた。日本学生支援機構の奨学金は、新年度開始後に下りる。大学と連絡を取り、分納できるかなどを相談するなどし、対応した。 ・総合型選抜に大学が力を入れている。そのため、これを受けた生徒が増えている。 ・再編・統合に向けて、生徒を「秦野曾屋高校の生徒」として、最後まで進路のサポートをしっかりとおこなっていく。 ●広報情報・特色グループ ・学校説明会の参加状況は昨年度並みであった。個別相談は少なかった。 ・来週は本町中学校の生徒が来校するので、しっかりとPRしていきたい。 ・夏季福祉体験は、55名の参加があった。 ・地域貢献活動として、中間試験最終日の10月17日に清掃活動を実施した。 ●管理運営グループ ・DIG演習を実施した。これは、地図を使って危険な箇所を確認していくものである。さらに、避難所運営ゲームを初めて実施し、高校生が避難所のスタッフとして働いたときのシミュレーションをした。来年度は今年度の反省を踏まえ、どのようにDIG演習を実施していくかを考えていきたい。 ・11月15日にふれあい美化清掃を実施する予定である。
	◎意見交換 ・英語の授業に関して、秦野曾屋高校では、英検だけでなく、話すことを念頭に入れた授業をどのように行なっているのか。 →回答: 今回見学をしていただいた英語コミュニケーションの授業内容は、大学授業に向けた読解中心のものである。一方、論理表現の授業では、話す活動が行われている。授業により、4技能を分けて実施している。 ・学校行事での反省点はあるか。 →回答: 体育祭の練習時間が少なくなっている。授業の時間との兼ね合いを見ながら、増やす方法を検討していきたい。また、体育祭の生徒会本部の負担が大きいので、体育祭実行委員の役割について再検討したい。 文化祭については、夏休み期間中の準備がなかなか難しい。準備の遅れや販売数の検討の難しさが浮き彫りになった。担任との連携を考えていきたい。 ・職員の人権研修があるようだが、今日では秦野市内に5000人の外国人がいることを踏まえ、今後どのような流れに持っていくのか。 →回答: 外国につながりのある生徒は本校でも増えている印象がある。外国につながりのある生徒への支援を増やしていく必要がある。外部の団体と協力をしながら生徒の進路実現につなげていきたい。 →回答: 今まで卒業生が来校して部活の支援をしてくれるということがあった。秦野曾屋高校は再編・統合するが、学校がなくなったあとも卒業生と教員とのつながりを大切にすることで他の学校でも部活動を充実させたい。 ・授業見学をするなかで、1年生が難しい内容にも頑張ってついていくところが見られた。 ・理学療法士の男性が増えている。その数は、女性を上回るようになった。 ・秦野曾屋高校の生徒活動を拝見している。文化祭のauPAYなど、教員が大事なことに集中できるように工夫していってほしい。 ・進路支援について、外部の団体を活用しながら生徒を育てていってほしい。 ・大学は受験方法と関連付けるなどをしながら、かなり追跡調査をしている。 ・再編・統合にむけて、教員が目の前の生徒の面倒をしっかりと見ていく。また、再編・統合に向けた各グループの計画の見直しの必要があるのではないか。 ・避難所運営ゲームの話を聞き、避難訓練の新しい見方を知ることができた。 ・夏季福祉体験の参加を増やしていってほしい。 ・「行きたい進路」の実現の話があった。社会福祉協議会では進路に係る教育資金の借り入れの事業を行なっている。これを行なう場合、生徒本人が借受人になる。しかし家庭の経済的状況が悪く、お金を稼ぐために進学先で学校をやめざるを得なくなる生徒もいる。そのため、卒業後の進学先での計画的な過ごし方についても、生徒に把握させてほしい。 ・秦野曾屋高校には英語教育・地域活動・福祉教育という3つの柱がある中で、福祉教育において学校と連携してきた。秦野曾屋高校との協力は最も大きいものだった。新しい学校になったとき、どのようにしていくのか。 →回答: 秦野総合高校にも学校内部において、福祉に関する取り組みがある。外部とのつながりがあるかはわからないが、新しい学校になったら、外部との連携にもアプローチしてほしい。 →回答: 地域に根ざした福祉の連携を続けていってほしい。 ・秦野曾屋高校がなくなることについて懸念がある。秦野総合と協力していってほしい。清掃活動や防災など、今後が心配である。 ・英語の授業が開かれた授業で、社会などもオリジナリティがあつた。 ・秦野曾屋高校が再編・統合されることは残念だが、今後もよろしくお願いしたい。 ・DIG演習について、どのように実施されているのか知りたい。本町中では折りたたみ式ヘルメットを購入した。机の横に掛けられる。 →回答: 防災マップを見ながら白地図に色を塗り、危険箇所や施設等を確認していく。避難所のスタッフとして運営するゲームについては後ほど教える。 ・募集がなされないということは、職員が減る。そうなると職員の負担が増えると思うが、うまくやっていってほしい。 →回答: 生徒の定数も少なくていくと思われる。それに対応していける範囲でやっていく必要がある。 ・体育祭について、熱中症対策の飲料の配付はうまくいった。 ・PTAの三重大会の内容が良かった。他校のPTAとの交流ができた。今後も意見交換ができると思う。 ・AuPAYにより、行列が減った気がした。来年以降も取り入れていってほしい。 ・PTAはほぼ全員が会員だが、今後は「強制参加ではない」ことを伝えながら会員を集めていきたい。 ・再編・統合に伴い、PTAの活動が衰退しないようにしていってほしい。 ・再編・統合は、今までよく見られた。それらの情報収集をしながら準備を進めていってほしい。 ・基礎知識がなければ討論はできない。今日では、とにかく対話をさせましょうという流れになっているが、対話のためには基礎知識が必要なので、これを大切にしてほしい。進路が決まった3年生もモチベーションを下げないように、教員から働きかけをしていってほしい。

◎次回の日程について
第3回 3月5日(木) 14:30-16:00